分科会資料（教科部会）

研究主題
「交流」のある授業づくりを通した説明力の育成

めあての提示

○　児童生徒にとって分かりやすい言葉で書く。

◇　「～が説明できる」が望ましい。

⇒「～を理解する」や「～を考える」としない。

◇　児童生徒に学習課題に対する見通しを確実にもたせるために，簡易な表現の「めあて」を提示することが必要である。

交流場面の設定

○　児童生徒に根拠や理由を付けて説明ができる場面を設定する。

◇　授業では全員に説明をさせる。

⇒　ペア活動やグループ活動をさせる。

◇　説明の内容や方法について確実に指導をする。

◇　交流の視点を明確に示す。

振り返り（まとめ）の記入

○　「めあて」に対応した「振り返り（まとめ）」を児童生徒の言葉で書かせる。

◇「振り返り（まとめ）」の場面でペア活動を実施し，説明させることも積極的に導入している。

◇「めあて」を達成するための「交流」であったかを「振り返り（まとめ）」の内容から把握する。

説明ツール

◇　児童生徒に分かりやすい説明をさせるために，全教科で使用するツールである。

クラゲチャート

考えを広げ，根拠を明らかにするためのチャート

ロボットチャート

仮定や事実などから結論までを，根拠を明らかにし，論理的に表現させたり整理させたりするためのチャート

ピア・フィードバック

◇　指導者が提示した交流の視点に沿って，児童生徒が聞いたり話したりする活動である。意見を述べてから相互評価をする。